

第2回周南市地域とともにある学校づくり推進協議会 会議要旨

開催日時：令和6年2月26日（月） 15:00～16:30

開催場所：周南市役所本庁舎1階 多目的室

主催者：周南市教育委員会 学校教育課

参加者：周南公立大学地域共創センター長、小・中学校長会長、公立学校教頭会代表、
学校運営協議会会長、PTA連合会代表、地域学校協働活動推進員代表、周南市役所関係各課担当者

1 開会行事

主催者あいさつ（周南市教育委員会学校教育課課長）
～課長あいさつ～

2 学校教育課所管説明

（1）今年度の取組

- ・各学校の熟議の内容やCSプレゼンツ等の報告
- ・子どもが参加した熟議の実施校数 40/40
- ・各種研修会の開催について
地域連携担当教職員研修会（年3回）
- ・行政との連携について
行政担当者会議
- ・アンケート結果について

（2）来年度の方向性について

- ・子どもの意思を中心に、子どもたちが主体的に参画できるように、学校・地域
・保護者・行政が関わる
- ・来年度の1回目の協議会を5月に開催予定

3 グループ協議・発表

（1）「子どもたちの参画を一步前進させていくために、子どもたちに関わる者として、それぞれの立場から行った取組や関わり方等の成果と課題について」

（2）「来年度、必要な取組や視点、方向性等について」

- ①熟議に参加した子たちの意見や思いを、他の子たちに広げる
- ②熟議に関わる子たちを増やす、日頃から地域住民と交流する
- ③地域連携を自分事として捉え、主体的に参画する子たちが増える

【発表】

- ・子どもたちの意見を大人が聞き、学校から各関係機関へ適格にオーダーすることが大事。そのためには地域のルートが必要で、リストを活用するといい。
- ・大人が中心となっているが、本当は子ども・学校が真ん中。

- ・熟議した後の報告は、資料作成が大変なため、動画にして共有すれば無理なく続くのでは。
- ・熟議で子どもたちが何も言えなかったとしても、経験として大事なこと。
- ・子どもが主体ではあるが、発達段階に応じて、特に小学校では大人がお膳立てしてしまっていることが多い。
- ・学校によっては、中学生や高校生が活躍している。子どもたちが主人公になっていることが増えている。
- ・サポートする側としては、「何をするか」や「どういう思いでやるのか」等を知っていないと支援が難しいこともある。
- ・学校や行政から発信も必要。
- ・保護者に関わってもらいたい。どうすればいいか。
- ・子どもたちがやりたいことをとにかくやらせてあげる。企画させて、失敗してもいいからやらせてみる。失敗したらそれも経験。周りが支援してあげる。
- ・高校生にも参画させる。子どもたちはビジョンが持てる。高校生が加わることで、子どもたちと大人の間に入ってもらうといい。
- ・熟議に参加しているのは、限られた子どもだけではなく、地域の人、保護者、市民センター主事などもおり、参加している大人からも熟議の内容を広げていく。HPを活用するなど周りに見てもらおう機会を増やす。
- ・保護者に参加してもらうことが大事。コミスクも高齢化してきている。持続していくためには、次の世代を作らないといけない。子どもが卒業しても保護者は残って参加してもらう。

4 閉会行事

周南市地域とともにある学校づくり推進協議会長あいさつ

～周南公立大学 地域共創センター センター長 立部 文崇 様～

- ・地域連携教育は最善なのか。地域のためになっているのか。子どもたちのためになっているのか。子どもたちはどう感じているのか。これらのことを考えることで、地域連携教育だからこそできることが見えてくるのでは。
地域と世界を比べて考えてみると、地域だからできることは、顔が見えること。いろんな人が日常的に関わっていること。ここが地域の良さであり、強みである。
- ・保護者やいろいろな人が関わっていくといい。ただ保護者も忙しい。保護者に積極的に参加してもらうためには、保護者にとって「いいな」と思えることが必要。それは子どもにとってもいいことにつながる。
- ・周南市が大切にしている子どもがまんなかであることが大事であり、正しいと思っている。
- ・熟議の内容を市民の方にも聞いてもらうといい。そのために、この場にもっと多くの市民が参加できたらいいと思っている。